

海外積立投資  
入門書  
(マニュアル)

著者：河合 圭

# 今すぐプリントアウトを

このレポートは非常にボリュームがあります。PCで見ているだけでは非常に目がつかれ、それだけであなたを疲れさせることになってしまいます。

そのため、まずプリントアウトをしてください。そして片手に蛍光ペンを持ってあなたが重要だと思うところをマークして行ってください。

きっとこれを読み終わるころには、蛍光色でいっぱいになっているはずです。それがあなたの今後の投資にとって大事なところですよ。

## この入門書を作った理由・・・

今回の『海外積立投資入門書(マニュアル)』は入門書第2弾となっており、第1弾は『オフショア投資入門書(マニュアル)』です。第1弾をまだご覧になっていない方は、まずそちらからご覧ください。

<http://xn--enyk60lt73bbjclvh.com/manualDL/>

そして今回の『海外積立投資入門書(マニュアル)』は、オフショアにあるファンドを毎月1万円から投資をしていこうというノウハウです。

先になぜこの第2弾を作ることになったのかをお話します。まず第1弾でオフショア投資のノウハウを知っていただいた方の中に、実際にオフショア投資をする方が多くいました。しかしその陰で、まとまった投資資金がないため、諦めている方も多くいることに気づきました。

個人投資家にはいろいろな方がいます。会社員の方、経営者様、お医者様、会計士や弁護士など専門職の方、主婦の方、プロの投資家などです。

年齢も様々です。一番多いのは30、40代、50代ですが、上で70代、下で20代の方が実際にオフショア投資をされています。しかし、まとまったご資金がないのは若い方に多いです。当然です。使うところは沢山ありますし、給与もまだそんなに高くはない。しかし若い方でも、将来の子どもの学資資金、自分の老後のための資金と、ちゃんと考えてコツコツ貯蓄しています。

その貯蓄はどのようにしているのでしょうか?主に以下の方法が多いようです。

- ・ 財形
- ・ 積立預金
- ・ 積立年金保険
- ・ 学資保険
- ・ 自社株積立(ストックオプション)

しかしながら、皆さん思っているのは「積立をしたとはいえ、増えていかない」ということです。そう、日本はゼロ金利なので、上記のような方法でコツコツ積立をしても、残念ながら増えないのです。

そこで私はこの『海外積立投資入門書(マニュアル)』を作り、

- 1) 積立をしながら増やすことが出来ること
- 2) 「ドルコスト平均法」によってリスクは確実に抑えられること
- 3) 「複利運用」によってさらに効率良く増やすこと

を知っていただこうと思いました。では順番にご説明していきましょう。

# 増やすにはなぜ海外なのか？

一言で答えを言うと、「運用をするから」です。海外には増える仕組みとファンドがあります。それを今からご説明します。

## 1) 増える仕組み

まず最初に積み立てる金額を決めます。最低1万円(USD100) ですが、今回は5万円積み立てるとしましょう。そして年数を決めます。お子さんの学資保険のために積み立てるのであれば、仮に15年(あなたのお子さんの年齢をあてはめてください)。あなたとあなたの奥さんの老後のための資金であれば、仮に25年としましょう(最長25年なのでそれ以上は設定できません)。

そしてこの毎月の積立をクレジットカードから自動で引き落とせるように設定します。これで毎月送金する手間が省けますし、財形のようにあなたの給与から自動的に積立ができます。

次にこのカードから引き落とされたお金を、オフショアのあなたの口座で運用することになります。運用はあらかじめ決めておいたポートフォリオで運用します。

<弊社推奨ポートフォリオ>

米国株：10%

インド株：10%

ラテン株：10%

東南アジア株：10%

米国ハイイールド債：20%

世界ハイイールド債：20%

金関連：10%

ヘッジファンド：10%

これで設定来利回り8.73%/年です。（※2017年9月時点の推奨ポートフォリオです。最新は個別にお問合わせください。）

ポートフォリオはいつでも変更できます。200本ほどのファンドから自由に選べるので、市場の状態によって株式資産を増やしたり、ヘッジファンドを増やしたりすることができます。

## 2) 増えるファンド

しかしながら、選べるファンドが大したもの でなければ、なんの意味もありません。ここでオフショアファンドの例を挙げておきます。

まずは皆さんが日本の証券会社でよく見る新興国株ファンドや世界債券ファンド、テーマ型ファンド（ハイテク関連株ファンド、バイオ関連株ファンドなど）などミューチュアルファンドは、だいたいこの海外積立投資の仕組みの中で投資ができます。選べるファンドは約200本。随時運営会社が運用パフォーマンスとリスク管理状況をチェックして入れ替えがありますが、日本の401kや変額年金保険のように上がってるファンドがない、という状況にはなりません。

更に一番人気のあるのが ManAHLというヘッジファンド。ManAHLというファンドは、商品先物指数(株、債券、為替、コモディティなど)をコンピューターで売買して、リターンをあげるヘッジファンドです。

CTA(Commodity Trading Advisor)という戦略名でも知られています。特にこのManAHLは過去1996年から運用していて、**年率平均リターンは11.83%、設定来リターンは930.40%(約9.3倍)**という数字を残しています(2017年1月現在)。

このManAHLを設定来のチャートで表したのがこちら。1996年4月から2017年1月までの実績です。

## Performance chart 27 March 1996 to 31 January 2017\*



毎月のパフォーマンスを見てみましょう。

Year	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	YTD <sup>14</sup>
2017	-1.40 %												-1.40 %
2016	4.27 %	3.42 %	-2.15 %	-5.53 %	-3.30 %	2.77 %	1.12 %	-3.63 %	-2.76 %	-2.89 %	-0.16 %	1.58 %	-7.55 %
2015	7.17 %	-0.75 %	1.84 %	-4.17 %	-2.67 %	-7.44 %	6.23 %	-0.29 %	3.68 %	-5.91 %	4.03 %	-3.24 %	-2.74 %
2014	-2.90 %	1.06 %	-0.16 %	-0.19 %	6.77 %	4.28 %	0.81 %	6.02 %	1.82 %	1.33 %	6.96 %	2.61 %	31.78 %
2013	2.05 %	0.23 %	1.83 %	6.11 %	-3.68 %	-8.05 %	-2.54 %	-0.30 %	-3.77 %	6.48 %	0.35 %	-0.47 %	-2.65 %
2012	0.26 %	2.21 %	-1.62 %	-1.40 %	-1.69 %	2.69 %	1.10 %	-2.85 %	1.18 %	-3.68 %	1.04 %	1.39 %	-1.60 %
2011	-3.53 %	1.22 %	-4.67 %	4.13 %	-1.47 %	-1.49 %	-0.32 %	6.88 %	0.71 %	-6.77 %	1.05 %	-2.01 %	-6.83 %
2010	-2.13 %	-0.90 %	5.40 %	2.03 %	-1.93 %	0.83 %	-2.28 %	6.79 %	1.25 %	8.43 %	-8.11 %	5.72 %	14.82 %
2009	-2.34 %	0.24 %	-5.93 %	-4.13 %	0.55 %	-3.49 %	0.88 %	-0.78 %	2.73 %	-1.60 %	2.11 %	-6.09 %	-16.89 %
2008	6.09 %	2.78 %	4.53 %	1.00 %	3.15 %	0.98 %	-6.11 %	-3.91 %	-0.48 %	15.45 %	1.28 %	5.83 %	33.23 %
2007	7.51 %	-2.95 %	-7.54 %	7.99 %	2.90 %	4.57 %	-3.86 %	-3.47 %	5.56 %	9.00 %	4.26 %	-4.16 %	19.61 %
2006	3.91 %	-0.79 %	-1.97 %	8.84 %	-3.35 %	-1.14 %	-5.44 %	1.14 %	1.81 %	0.18 %	0.32 %	3.44 %	6.39 %
2005	-6.56 %	4.34 %	-1.16 %	-2.34 %	2.82 %	6.95 %	-0.31 %	2.30 %	3.98 %	0.66 %	6.28 %	-0.55 %	16.77 %
2004	4.48 %	-1.00 %	-0.86 %	-4.45 %	-3.41 %	-4.86 %	-2.01 %	1.46 %	2.83 %	7.14 %	6.44 %	0.15 %	5.15 %
2003	6.93 %	8.09 %	-8.27 %	-0.97 %	13.46 %	-4.02 %	-0.24 %	-0.88 %	1.07 %	2.52 %	-3.36 %	8.03 %	22.30 %
2002	-3.53 %	-4.66 %	-1.96 %	-1.91 %	-0.19 %	12.97 %	5.74 %	2.47 %	8.26 %	-9.60 %	-4.61 %	10.42 %	11.39 %
2001	-0.10 %	2.92 %	11.83 %	-6.30 %	-2.13 %	1.46 %	1.62 %	0.81 %	16.39 %	0.90 %	-4.66 %	-2.46 %	19.70 %
2000	1.14 %	-0.16 %	-2.45 %	-4.19 %	7.00 %	-5.33 %	-2.18 %	3.45 %	-0.61 %	4.62 %	3.75 %	14.92 %	19.93 %
1999	-4.73 %	2.33 %	-2.15 %	6.37 %	-3.80 %	2.66 %	-2.76 %	3.27 %	2.62 %	-4.18 %	4.78 %	2.75 %	6.53 %
1998	-2.54 %	5.82 %	1.20 %	-2.77 %	4.95 %	3.94 %	-0.37 %	19.87 %	0.36 %	0.04 %	2.40 %	3.78 %	41.05 %
1997	3.14 %	6.44 %	-2.33 %	-4.15 %	0.78 %	4.58 %	9.43 %	-8.00 %	2.14 %	2.10 %	-1.99 %	10.80 %	23.49 %
1996				4.39 %	-2.48 %	0.46 %	-2.12 %	0.59 %	10.62 %	8.67 %	9.79 %	3.16 %	37.10 %

ただのミューチュアル・ファンドばかりだと、全部株と同じような値動きをしてしまいますが、こういったヘッジファンド資産と一緒に投資をすることで、株の下落時にもリターンを出すことができます。

このようなファンドに投資できる仕組みがあることが、海外で積立投資で投資をする大きな理由の一つです。

## 「ドルコスト平均法」とは？

前回の『オフショア投資入門書(マニュアル)』の方法で、一括投資(100万円などある程度まとまった額でファンドを購入すること)をすると、今の価格でそのファンドをまとめて買わなければいけないため、あとは将来上がるかどうかです。オフショアのヘッジファンドはほぼ毎年上がっているのに、今買えばいいのではありませんが、投資というものは上がったり下がったりの繰り返しです。もちろん将来上がると思って投資するのですが、絶対ではありません。

そこで毎月一定額を積み立てていくのです。ここでのポイントは、毎月一定数量(100株とか100口とか)ではなく、一定金額(5万円とかUSD500とか)で購入していくということです。

では何が違うのか?例を挙げてご説明します。

【例】もし**一定数量**でトヨタの株を100株ずつ購入していくとします。

<トヨタ株価>

3400円(現在)×100株=340,000円

3000円(1ヶ月後)×100株=300,000円

4000円(2ヶ月後)×100株=400,000円

となり、全部で104万円かかり、**1株あたり3460円**で購入したことになります。

これを**一定金額**(5万円)で購入したとします。

<トヨタ株価>

5万円÷3400円(現在)=14.7株

5万円÷3000円(1ヶ月後)=16.7株

5万円÷4000円(2ヶ月後)=12.5株

となり、総額15万円で43.9株なので、**1株あたり3416円**で取得できました。

気づきましたか？そう、同じ株価の動きにも関わらず、一定数量を購入していくよりも、一定金額を購入していく方が1株あたりの買付単価は抑えられているのです。

なぜでしょうか？

それは毎月一定額を購入していくことで、**株価が安い時には多くの株数を買**い、**株価が高い時には少しの株数を買っている**からです。これを**ドルコスト平均法**と呼びます。

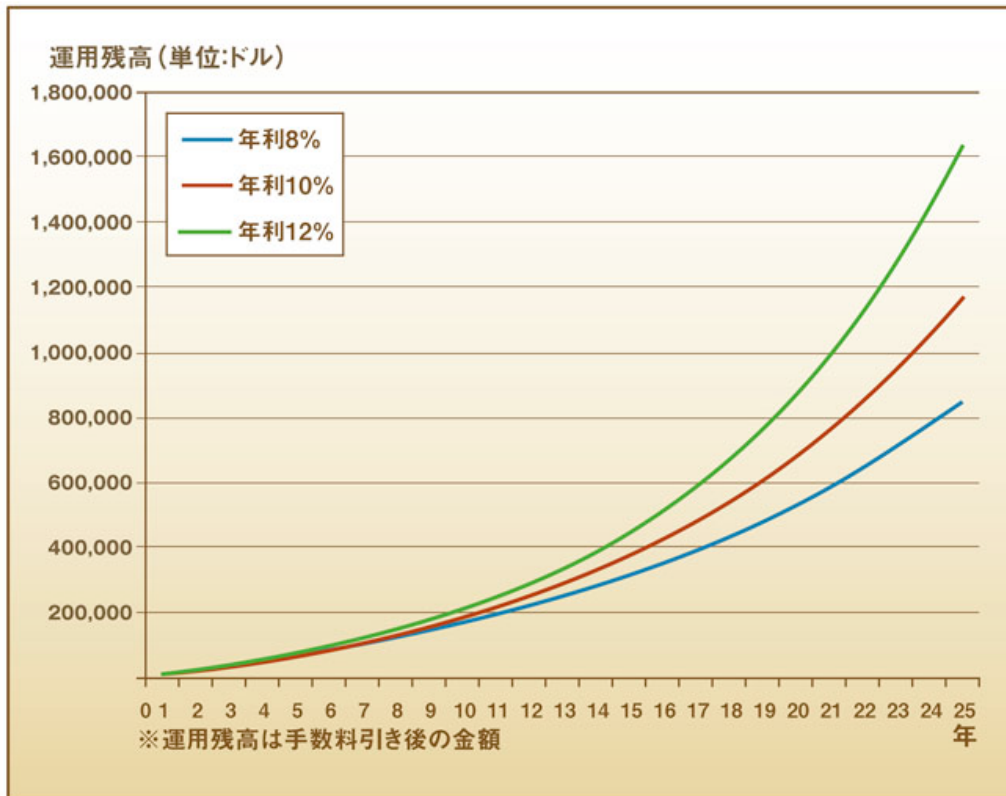
投資というのは将来上がるか下がるかわからないから、上がっても下がっても一定金額を購入していくことで、自然と安いところで買って、高いところでは買わないという投資をしていくのです。だから積立投資が投資で最もリスクを回避し、安全な運用と言われているのです。

## 「複利運用」とは？

最近流行りの「毎月分配型ファンド」。「毎月分配型ファンド」とは、ファンドで運用しながら、毎月必ず分配金を出すことで、一部利益確定(利益が出ていない時も多々ありますが)をして、運用資産の一部を投資家に返しているファンドです。利益確定には税金もかかるので、あなたは毎月20%の税金を納めているということです。

これに対し「複利運用」というのは、運用期間中は利益確定もしないし税金も納めないということです。つまりあなたが投資したお金は、運用期間中ずっと、増えれば増えた分も含めて運用されます。これによって、一定の運用利率だとすると、以下のグラフのように、右肩上がりの放物線状の運用成果となります。





仮に毎月USD500(約5万円)を25年間積み立てたとしましょう。25年後にあなたが積み立てた金額は1500万円。これが複利運用によって

**年利8%運用：USD 423,426(約4200万円)**

**年利10%運用：USD 580,447(約5800万円)**

**年利12%運用：USD 806,929(約8000万円)**

となります。

毎月USD1,000(約10万円)であれば、当然結果もその倍です。25年後には1億円を超えてくる可能性が出てきます。

# 3つの海外積立投資

海外海外積立投資には3種類あります。1つ目は、単に年3.5%（保証金利）の金利を毎年もらいながら満期（15年後）まで積立てようというもの。2つ目は、満期まで積立て続けると元本の一定割合（100%、140%、160%）を保証するというもの。3つ目は、10~25年の積立（期間は任意）で、投資額に上乗せして最高5%必ずもらえるもの（%は投資額による）です。

## 1. 3.5%金利保証プラン

まずは<3.5%金利保証プラン>。

毎年3.5~6%の間で金利が決まり、満期まで（15年）積立続けます。金利は市中金利から決まりますが、現在（2018.1）の現行利回りは低金利が続いていることもあり3.5%。米国は現在利上げをしている最中ですから、これが今後上昇していくかもしれませんが、いずれにせよ最低3.5%という日本よりも全然高い金利が保証されています。

更に最初の2年間は積立額などの変更はできませんが、3年目からは変更も自由です。そして変更をしてもこの最低保証の金利3.5%は保証され続けます。

つまりとりあえず2年間貯蓄できるような余剰資金があるのであれば、これを始めるといいですね。

## 2. 元本確保型プラン

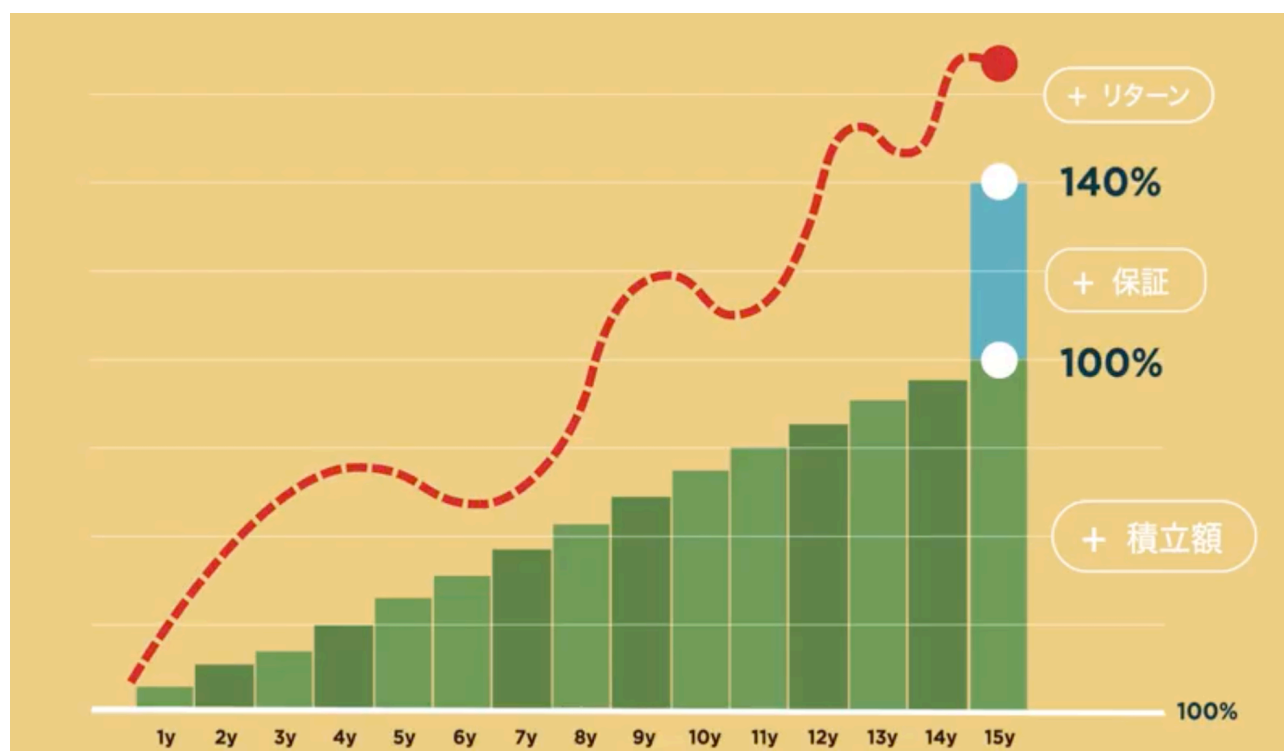
次は<元本確保型プラン>。3つの期間で以下の元本（積立総額）がそれぞれ保証されます。

10年：100%保証

15年：140%保証

20年：160%保証

つまり15年積立であれば、元本+40%が保証されているということですね。



仮に45歳の時から毎月5万円を15年間積み立てると、60歳までに積立が900万円が、360万円 (+40%) 上乗せされて**1260万円**で返ってきます。

更にこれはただの最低保証なので、仮にこの積立年金プランの投資先であるS&P500（米国株インデックス）が上昇していた場合はその高い方を満期時に受け取ることができます。

これが過去のS&P500の推移（チャート）ですが、全然日本株（日経平均株価）と違いますね（笑）。



### 3. 変額プラン

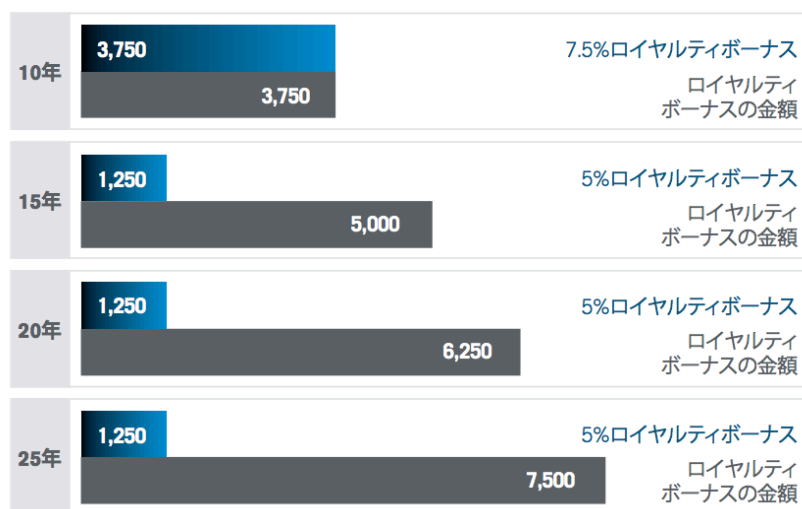
最期に<変額プラン>。

これは毎月積立てる金額によりますが、以下の金利が投資額に上乗せでもらえます。

- \$150 (約1.5万円) : 1%
- \$300 (約3万円) : 2%
- \$450 (約4.5万円) : 3%
- \$600 (約6万円) : 4%
- \$1125 (約11.2万円) : 5%

日本でほぼ0%（ゼロ金利政策）なのに、海外では最初からこれだけの金利がリターンとして出た上で、ファンドへ投資ができるということです。

更に経過期間によって（10年、15年、20年、25年目）、お祝金のようなロイヤルティボーナスがもらえます。



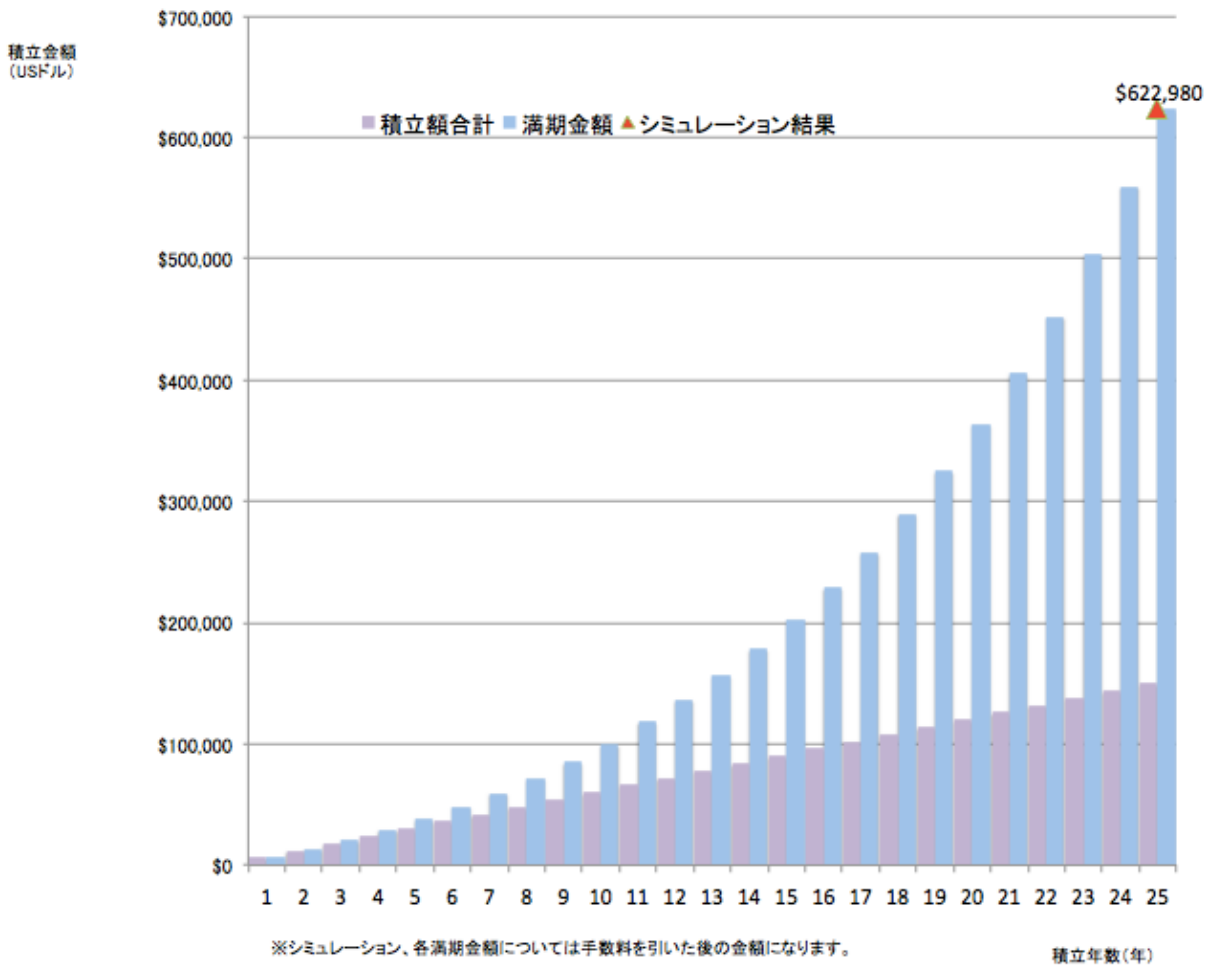
なおこれもまた<変額>という名前の通り、投資先は200本のオフショアファンド（海外のファンド）からポートフォリオを組んで投資ができます。日本でいう401k（確定拠出年金）のようなものですね。日本の401kは投資先が限られてしまっていて、どれに投資しても増えていない（むしろ減っている）という状態ですが、この<変額年金プラン>の投資先は世界中にある200本のファンドなので、要は何にでも投資ができると考えてください。

そして私が今まで推奨してきたポートフォリオでの年間平均利回りが9.5%なので、先ほどの固定金利にプラスされてこの運用益が毎年もらえていることになります（2015年10月時点）。

チャートにするとこうなります。同じく毎月毎月5万円の積立で作りました。

複利運用の毎年9.5%なので、25年間で実際積立てた金額が1500万円（\$150,000）でも、運用と固定金利によって6229万円（\$620,000）になっています（4.15倍）。

このポートフォリオは契約者がいつでも自由に日本語のオンライン画面から変更できます（手数料なし）。



また海外の積立年金は契約を後々変更できるというのも魅力的です。例えばこの海外積立投資。最長の25年という積立期間で契約をしても、3年目からは自由に・・・

- 積立額の減額
- 積立のSTOP
- 積立てた資金の一部引出し

がペナルティなしでできます。つまり将来はその時の収入状況、家族状況などに応じて積立額を変えることもできれば、お子さんの学費や家購入時には積立てた資金を引出して使うこともできます。

長い人生、将来何があるかなんて誰にもわかりません。そのための蓄えでもありますが、そのための柔軟性ある商品設計になっているということですね。

(なお日本の個人年金保険など生命保険の場合、契約後の減額も積立のSTOPもできませんから、もし将来失業してお金を払えないとなった場合は、実質解約という手しかありません。解約となった場合、今まで積立てた資金はほとんど返ってきません。ましてや保険として積立てた資金の一部を引出して自由に使えるなんてことは考えられませんね。)

## 海外積立投資の手順

1) まずご自身でいくらを何年積み立てるのか考えましょう。

### <3.5%金利保証プラン>

積立額：USD200 (約2万円) ~ / 月

年数：15年のみ

### <元本確保型プラン>

積立額：USD200 (約2万円) ~ / 月

年数：10年 (100%保証)、15年 (140%保証)、20年 (160%保証)

### <変額プラン>

毎月積立額：USD100(約1万円)~ /月

積立年数：10、15、20、25年

2) 次に海外積立投資の手数料などを理解しましょう。別途資料がありますので、こちらまでご連絡ください。

<http://k2-investment.com/inquiry/?ad=manual>

3) 投資先ポートフォリオをどうするか?を決める。

といってもほとんどの方が弊社が推奨しているポートフォリオ (過去9.5%/年の実績)で運用されています。同じポートフォリオにしてもらってもいいですし、ご自身の相場観で決めてもらっても大丈夫です。

4) 弊社が申込を電子申請代行

以前の書類記入作業はなくなりました。Webにて申込をできますので、弊社が代行して申し込んだ上で、申込内容をメールにてお送りします(PDF)。

5) 申込みには以下3つの証明書を弊社までメールかFAXにてお送りください。

- ・ **パスポート**
- ・ **運転免許証 or 住民票 or 公共料金等の明細(3ヶ月以内)**
- ・ **銀行の通帳(銀行名、口座名義人名、最終記帳ページ)**

6) 翌月からクレジットカード経由で引き落とし開始。

7) オンライン登録をして、いつでも運用状況をチェックできるようにしましょう(弊社が登録代行)。



## 最後に・・・

ポートフォリオの組替というのも、長い積立をしていく過程では、どこかで必要になります。弊社では定期的にそういった提案も行っておりますし、随時相談にもものっています。また投資金額の変更も可能です。ずっと同じ金額を積み立てていく必要もありません。将来の時点で、給与に応じて、またご家族の生活に応じて、増額したい時、減額したい時いつでもすぐに遠慮なくご連絡ください。

※ 本入門書を動画(Youtube)でも配信しています（無料）。

<https://youtu.be/h6sAlc6PhB4>

K2 Investment

会長 河合 圭

[info@k2-investment.com](mailto:info@k2-investment.com)

<http://k2-investment.com/>